

令和5年度第2回図書館協議会会議録

日時：令和5年11月29日（水）

午前10時30分～

場所：聖籠町立図書館 会議室

出席：本間敬委員長 土田清絵副委員長 島村優里委員 西村美紀委員 手嶋涼委員
小林隆裕委員 渡辺まゆみ委員 宮野久美子委員

欠席：高橋静子委員

事務局：渡邊館長 飯沼副館長 佐藤主任司書

1 開 会

- ・委員長開会挨拶
- ・館長開会挨拶

2 議題

(1) 令和4年度図書館評価（案）について

(委員長) では、令和4年度図書館評価（案）について事務局より説明をお願いいたします。

(事務局) 「令和4年度図書館評価（案）について資料のとおり朗読説明」

(委員長) 事務局から令和4年度図書館評価（案）についてご説明いただきました。委員の皆様から意見ご質問ありますでしょうか。

挙手なし（意見なし）

(委員長) よろしいですか。ご意見ご質問ないということであれば、この評価（案）についてご承認をお願いいたします。承認される方は挙手をお願いいたします。

全員挙手（賛成）

(委員長) 満場一致で賛成ですね。これにより、令和4年度図書館評価については、これで最終決定となりました。それでは次の議題に移ります。

(2) 視察研修について

(委員長) 10月17日(火)に三条市立図書館で視察研修を行いましたので、その視察研修の中身について、意見交換を行いたいと思います。委員の方からは5名、職員は、館長、副館長、佐藤主任司書の3名の方から合計8名で視察に行ってきました。視察に参加されない方もいらっしゃいますので、概要について、事務局より説明願います。

(事務局) 「視察研修概要報告」

(委員長) ありがとうございます。それでは研修視察に行かれた委員の皆様より所感を簡略に発表いただきたいと思います。

(出席された委員より所感を報告。)

(委員長) 全体を通してご意見、ご感想ありますでしょうか。

(委員) 「まちやま」に入った時、香ばしい、コーヒーの匂いがとても落ち着くので、図書館の飲食スペースに有料でもいいので、ドリップのコーヒーがあるといい。

(委員長) 外にありますか。

(委員) 「まちやま」の施設(スパイス研究所)に市民の不要なもの・欲しいものを記入する札があり、物のやり取りができるしくみがあった。そのようなものが図書館にあると、人を寄せる装置として何か機能できるのではないか。また、違うことをやっているざわめきがあるところがいい。すごく静かな空間は魅力だが、あまりにも静かすぎると音だけ気にしてしまう。まちやまでは、鼻をすするだけで苦情がきたとのこと。その程度の音は、気にならないようになるといい。子どもの声とか囁き声ぐらいただったらほかの人も気にならない状況がつかれるのでは。

(事務局) お時間をいただければ、頂いたご意見の中で「まちやま」と本館を比較したことについてお話をさせていただきます。

・音について…「まちやま」でも1階のコーナーだけ音楽が流れていたように、音楽を流している図書館もある。椅子を引く音・勉強の音・話をする音様々ある。完全に無音にすることが難しく、そのために音楽を流す図書館もある。児童に関しては、特に子供を育てている方が気にされる方がおられる。当館は、おはなし室が区画を区切ることで声を遠慮せずに出せる。当館は平屋を

活かして賑わいのある所と勉強するところとの区画分けのない作りになっている。本来静かではないイメージで作られた図書館だったはずが、図書館は静かであるべきというイメージを履返すことができず、そのまま今も引き継いでいる。そこで音楽を流してはどうかという意見も何度かあった。無音を好まれる方が来ていることもあり、なかなか建物の構造上難しく、建築のコンセプトが大きく影響するものなので、どちらかになりがちなものをアイデアでどう解決していくのか悩みどころ。音楽をかける機能は備えてはいる。

・イベントについて…「まちやま」にあった市民の方がおすすめする本棚は、当館でもやっている。11月に町民の方、職員のおすすめの本のコーナーをやっている。「まちやま」での選者は

「えんがわ」の関係者、三条市内で本に関わる仕事をしている人で、本について知っている方が多かった。関係人口の濃さが三条市は、聖籠町よりも多い。独自の本屋や地域おこし協力隊など、地域の中でのそうした階層の強さが三条あり、歴史もあり、携わっておられる方も新しくいろいろやろうという市民団体の力がかなり強い印象。なので、市民性もあるのでは。

・自動貸出機、プライバシーについて…当館でも努めていかなければならない。金額は大きいですが、自動貸出機を一つ付けるだけでニーズに答えられる。

一方で、図書館としてのコンセプトをわざと基本理念として言わなければならないというのが三条市立図書館。今の図書館は、地域の賑わいの創出がメインになっている。当館のように単独で図書館が欲しいという声でできた図書館は、そうした図書館をめぐる時代の流れの最後のあたりのように感じる。だから単独館で、複合施設でなく図書館の機能が欲しいという当館と、町の賑わいの創出のために何か欲しい、として建てられる今の図書館ではこれだけ違うものができるのではないのか。今新しい図書館を建てるとなると、図書館単独というのはかなり難しいところがある。当館は全国の中でも町の特性が表れている図書館だと思う。

長々お時間いただきましてありがとうございました。

(委員長)

ありがとうございました。外の委員さんからもご意見ありますか。よろしいですか。それでは、第2回の聖籠町立図書館協議会の会議を終わります。大変長い間ありがとうございました。

以上